

島ヶ原おかみさんの会



タイ人の研修生を手料理
でもてなす「おかみさん
の会」メンバー＝伊賀市
の喫茶「夢の道」で

日本の生活に親しん
でもらおうと二十四日
夜、伊賀市のNPO法
人「伊賀・島ヶ原おか
みさんの会」が運営す
る喫茶「夢の道」で、
三重大学伊賀研究拠点
で研修中のタイの大学
生ら十三人の歓迎会が
開かれた。

タイの学生 地元住民と交流

タイの学生らは、生
物資源をエネルギー
に変えて生活に活用す
る「バイオマスタウン
構想」を学ぶために
二十四日から四日間、
市内で講義やワークシ
ョップを予定してい
る。

歓迎会では「夢の
道」を運営する穂積澄
子さん(セコラがカボチ
ヤの煮物や伊賀牛コロ
ツケなど手料理二十品
余りを用意した。

学生らは心尽くしの
料理を味わいながら、
通訳を介して地元住民
らと交流。「タイでよ
く行く日本食のレスト
ランよりおいしい」な
どと笑顔で話してい
た。

(山田雄之)

日本の家庭料理で歓迎

伊賀のバイオマス学ベ

タイの学生ら「菜の舎」視察

代替エネ生産に興味

三重大学（津市）の国際大学交流セミナーで県内を訪れているタイの学生や教員13人が26日、伊賀市のバイオマスタウン構想を学ぶため、同市田野の搾油施設「菜の舎」を視察。ナタネ油の精製過程を熱心に見ながら、植物資源を活用した代替エネルギー生産の仕組みに興味を示した。



セミナーに参加しているのは、チェンマイ大学などタイの4つの大学の学生や教員ら。22日に三重県入りし、これまで三重大や伊賀市の同大学伊賀研究拠点でエネルギーの地産地消やバイオディーゼル燃料（BDF）の生産技術などの講義を受けてきた。

同市ではバイオマスタウン構想の一環として、市民が栽培した菜の花からナタネ油を生産し、廃油をBDFにして資源の循環を目指す「菜の花プロジェクト」に取り組んでいる。

学生たちはこの日、菜の舎の施設内でナタネを乾燥・収穫、乾燥されたナタネを見学するタイの学生ら「伊賀市の「菜の舎」

して食用油に精製するまでの工程を見学。職員の説明を熱心にメモしたり、カメラで撮影するなどした。

参加者の1人でモンクット王トンプリ工科大学の大学院生、サランヤ・サティマンワイアさん（29）は「タイでは植物から油をとる仕組みがないので、びっくりした。日本のバイオマス技術を学んで帰りたい」と話した。一行は27日まで伊賀市に滞在、その後三重大で講義を受けて9月1日に離日する。

菜種油精製法学ぶ

タイの学生、伊賀の施設で

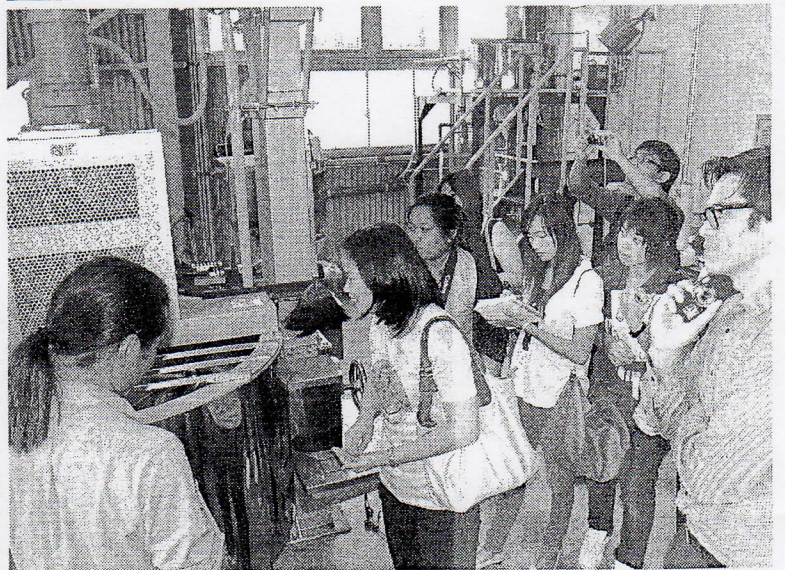
【伊賀】三重大大学の国際大学交流セミナーに所属するタイの大学生や教員十三人が二十五日、伊賀市甲野の搾油施設「菜の舎」を訪れ、菜種油の精製方法について学んだ。

学生らは、今月二十二日から来日。同大の教授らによる講義やワークショップ

に取り組み、植物資源を石油の代替エネルギーとして活用する「バイオマスタウン構想」を学んでいる。

「菜の舎」は、菜の花を用いた循環型社会を目指す「菜の花プロジェクト」の一環で昨年四月に完成。大

山田農林業公社が同市の指定管理で運営している。



菜種の搾油施設を見学するタイの学生ら＝伊賀市甲野の「菜の舎」で

この日、同公社の職員が、学生らを菜種の保冷庫や搾油施設に案内。菜種油の精製方法について説明した。学生らは通訳を介して、真剣にメモを取ったほか、菜種を手にとって味やにおいを確かめていた。

モンクット王トンプリエ科大学のサティマンウィアさん（左）は「植物はいろいろな使い道があるが、タイでは生かし切れていない。日本ではバイオマスの技術を学ばたい」と話していた。

2011.8.27 伊勢新聞